



当日のアカムツ仕掛け

Tackle Guide
 今回全長2メートルの青物竿を使ったが当日は波が高く釣りづらかった。ウネリや波が高い日が多い福田沖で置き竿で釣るなら、全長2.4~3メートル前後で軟らかめの竿がおすすめ。

オデコは出さない！

釣り方を聞くと、この日は前日のシケの影響で潮が濁りタナの見当がつかないため、底から15メートルまで電動の微速で巻き上げて誘い、アタリがなれば再着底させて誘い上げを繰り返して、3メートル付近でアタリがきたとのこと。同船では前日によく釣れたタナが分かっていて、船長が指示タナをアナウンスするが、そうでないときは最初にアカムツを釣った人のタナを周りの人に伝えて狙うことが多いようだ。



▲電動微速巻きでタナを広く探り船内最初の1尾を釣り上げた菅沼さん



▲まめに底ダチを取り直してタナに仕掛けをキープしよう

▼この日は25~30センチ前後が多かった



この日は強風と濁り潮に苦戦したものの、松井さんと松本さんが5尾、菅沼さんが3尾、寺田さんが2尾とお土産は十分。数日後にはトップ10尾以上と復調しており、福田沖のアカムツは今後も有望。東名高速・東京インターから3時間ちよつとのドライブでアカムツ天国が待っています！

で再開。菅沼さんが底から3メートルのタナでアタリがきたことをほかの人に伝えると、ほどなく左トモの寺田さんにアタリがあり25センチ級が上がる。さらに右ミヨシの松井さんが35センチ級、右トモの松本さんが30センチ級と続く。どうやら食い気のある群れに当たったようだ。

アタリが遠のくと潮回りして同じ筋を流す。船長の経験では、アカムツは15~20尾くらいで群れていることが多いそうで、ポイントの目星がつくと潮回りを繰り返して狙うそうだ。

このポイントで各自が1~2尾追加して、食いが一段落したところで再び移動。その後は180~230メートル付近を流してポツポツ拾い釣り。

私もベテランの皆さんに倣い置き竿で釣り始め、胴つき3本バリ仕掛けを投入。上潮

たそうだが、今は比較的オマツリしにくい胴つき式が主流になっているという。

エサは定番のホタルイカで、関東方面ではツボ抜きしたゲソ(頭部)をハりに付ける方法が一般的だが、船長はエンペラ付近に縫い刺しにする1杯掛けを推奨。イカがヒラヒラと漂う様が最高のアビールになるという。

「底から15メートルくらいに反応があります」

初めて当地でアカムツ釣りをした人の大半が驚くのが、この高めのタナを狙うスタイル。船長によれば、普段は底から5メートルほどの範囲を狙うことが多いそうだが、深夜に

が速いのか仕掛けがトモ側へ流されるため、サミングして道糸を立てつつ下ろしていく。着底後、数回底ダチを取り直して糸フケを取り、この日の当たりタナ(底から3メートル巻き上げて待つ)。

当地のポイントは斜面が多く、徐々に浅くなる流しもある。れば、深くなる流しもある。場所によっては一度の流しで浅くなったりと深くなったりすることもある。まめに底ダチを取り直してタナに仕掛けをキープしていく。

すると仕掛けを再着底させ、巻き上げた所でククンと竿先がたたかれた。上がったのは25センチ級のアカムツ。「数はともかくオデコを出さないようにしています」と出船前に船長が言っていたから、私の釣り座が潮先になるように船を当ててくれたのだろう。その後は、予報どおり風が

船宿information
 遠州灘福田港
福德丸
 ☎0538-23-4843
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=アカムツ乗合一人1万3000円(エサ、水付き)
 ▶備考=6人限定予約乗合、5時出船。東名高速・袋井ICから15分

寺田 桂司船長

▲アカムツは小型でもほどよく脂が乗って美味

5月下旬、アカムツを狙って遠州灘福田港の福德丸へ。当地はアカムツファンなら知らない人はいないだろう有名な釣り場のひとつだ。寺田桂司船長によれば、地元静岡はもとより、隣の愛知や岐阜を始め、関東や関西、遠くは九州や北海道からわざわざ訪れるファンもいるらしい。

同船は周年アカムツ専門の6人限定乗合で出船しているが、福田沖のアカムツがピークを迎える時期が春と初冬の2回あるという。

春のピークは産卵期の3月下旬~5月上旬ごろで、今年一番いい日は55~60センチ、重さにして1.5~2キロ級を頭に6人で100尾以上と聞いて、型数ともに規格外の釣果に驚いた。

一方、初冬のピークは11~12月ごろとなり、例年9月ごろからジワジワと模様が上向くそうだ。

となると、春と初冬のピークに挟まれた、これから夏に向けての状況が気になる。しかし、船長によれば特大サイズこそあまり顔を出さないものの、30~40センチ級主体にトップで5~10尾くらいは釣れるというから、福田沖のポイントシヤルの高さは相当なものだろう。

底から15メートルを探る

当日の乗船者4名は皆さん地元のベテランで、私は船長の指示で左ミヨシに入り5時に出船。

釣り場は西は天竜川の沖合から東は御前崎の手前くらい

遠州灘福田港発!福田沖 東京インターから3時間ちよい アカムツ天国! 福田へ行くろう

本誌編集部/内山高典 Takahashi Uchiyama

知得! Tips and Tricks
寺田船長のアカムツ仕掛け例

アカムツ仕掛けに欠かせないマッシュマロボールやフロートパイプなどのアピールアイテムの付け方は様々あるが、写真は寺田船長の仕掛けの一例。ハリのチモトの夜光玉は「目」、5センチにカットした夜光フロートパイプは「胴」、マッシュマロボールが「尾」。で、深海の発光生物をイメージした組み合わせとのこと。

夜光玉とマッシュマロボールの間隔は7~10センチほどで、夜光フロートパイプが遊動する仕組み。誘いや潮の流れで仕掛けがなびき、発光生物のように夜光フロートパイプが動いてアカムツの興味を引く、そんなイメージで作っているそう。

▶アタリがない人は、希望すれば船長が仕掛けを分けてくれる